

1. 河川環境の評価

川の環境目標の検討

< 背景・経緯 >

- ・平成9年の河川法改正により、河川管理の目的「治水・利水」に「環境」が追加
- ・多自然川づくりや自然再生事業など、環境を扱う河川事業が本格化
- ・「治水・利水」と比べて、**環境の目標は定性的な表現にとどまっている。**



< 委員会の設置・検討 >

- ・河川環境の具体的な目標を科学的・客観的に設定する手法の確立を目的
「**河川環境目標検討委員会**」（委員長 山岸哲先生）平成14年11月に設立
- ・海外の取り組み事例を紹介、我が国にあった手法について議論を重ねた。



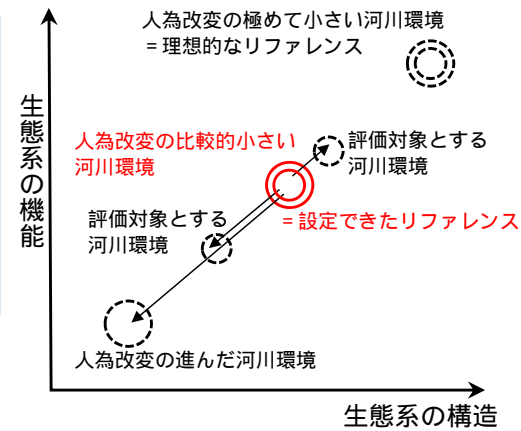
< 成果 >

- ・目標を決めるには河川環境の現状分析・評価（健康診断）が必要
- ・リファレンスの設定の重要性（「ものさし」がないと評価できない）
- ・目標設定の方法には様々な考え方や課題もあり、一つの結論には達しなかった。
成果は「**川の環境目標を考える - 川の健康診断 -**」（平成20年）にまとめた。

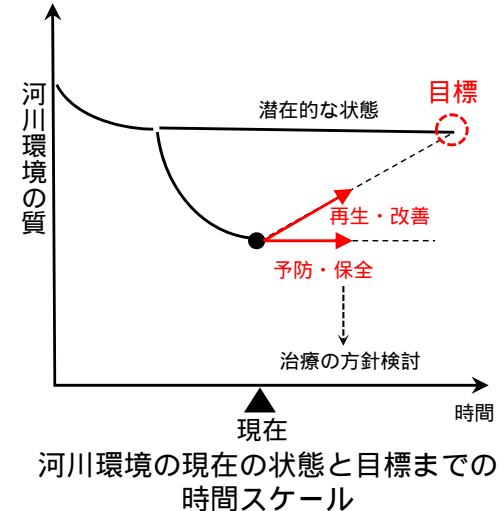
川の環境目標の検討

< 成果 : 河川環境の目標設定の考え方 >

- ・ 目安となる状態を設定 (リファレンス)
- ・ リファレンスとの違い (かい離の程度) から現状の評価を行う。



評価の基準(リファレンス)のイメージ



河川環境の現在の状態と目標までの時間スケール

< 成果 : 目標を設定する際に留意すべきこと >

リファレンス設定の重要性

“ものさし”がないと評価できない。

河川環境の階層構造

流域・セグメント・リーチ・ユニットに着目し、指標を選ぶ。

生物の許容度や応答のタイムラグ

事後モニタリングにおける目標達成の見極め。

住民意見・合意形成

環境目標とは、科学的見地のみで決まらず、住民との合意も必要

河川行政との関係

河川整備基本方針、河川整備計画に活用可能

川の環境目標の検討

< 成果 : 河川環境の目標設定の流れ >

	集団検診		精密検査		治療	経過観察 ・定期検診
	現状の把握	現状の評価	将来予測	保全・再生の 必要性	対策の具体 化・実施	フォローアップ
全国・ 地域	流域環境の現 状把握 分布傾向・経 年変化の分析	各河川・流域 の位置づけ 参照する河 川・流域の判断	全国的な問題 生息場と生物との 対応分析 代表的生物の予測	全国・地域 での保全・再 生の必要性の 評価		
流域	物理環境調査・ 生物調査	リファレンスの 設定	歴史的変遷の整理 潜在的な状態の推定	現状の評価結 果の分析	様々な対策案 の想定	現状の再評価
セグメ ント	ランク付け 現状の把握	かい離の程度よ る評価	I-Rの想定・検証	将来予測結果 の分析	具体的な対策 の検討	
リーチ		精密検査の実施 判断	問題の原因解明 将来予測	保全・再生の 必要性の検討	具体的な対策 の決定 対策の実施	フォローアップ
目標 設定	全国や地域で、環境の質の改善を 行う河川の割合、改善する環境の 指標		「保存、保全・予防、再生・改善」 を場所ごとに決定、潜在的な状態を 推定		「保存、保 全・予防、再 生・改善」の 効果を具体化	

まとめ

- 治水、利水と比べ環境の目標は定性的な表現にとどまっている。
- これまでも環境目標の設定に取り組まれ、結論には至っていないが、目標設定に向けた道筋、手法などがまとめられつつある。



- 目標設定の結論を得るのは更なる検討を要することから、河川環境目標の設定に向けた第一ステップとして、既存データを活用しつつ、河川環境を評価し、具体的に改善に結びつけていくことが重要ではないか。